



島内の放鳥トキ生息状況

昨年9月に実施されたトキの第5回放鳥では、18羽が野生復帰ステーション順化ケージから放され、そのうち16羽が島内で確認されています(2012年2月現在)。目撃情報をお寄せいただいた市民の皆様、ありがとうございます。

これまで計5回の放鳥で放たれた78羽のトキのうち、44羽の生息が島内で確認されており、主に「新穂・両津・金井地区」、「畑野・真野地区」、「羽茂地区」の3か所で行動しています。

繁殖期には

トキの巣に近づかないようしましょう。放鳥トキの多くは羽の色が黒くなり(繁殖羽)、徐々にペア形成が始まっています。

今後、ペアごとに群れから離れて、気に入った木に巣を作り、卵を産みます。

卵はオスとメスが交代で温め、約28日でふ化し、ヒナは約40日で巣立ちを迎えます。この一連の繁殖行動の期間(おおむね3月〜6月)は、トキが非常に神経質になる時期でもあります。トキが出入りしている林や巣材を運び込んでいる場所には、近づかないようお願いします。

また、トキが営巣したことなどによって、お困りのことがありましたら、ご連絡ください。

◆市役所農林水産課 生物多様性推進室
トキ政策係(第2庁舎) ☎63-3761
◆環境省佐渡自然保護官事務所
☎22-3372

36年ぶりの野生下での二世誕生に向けて、温かく見守っていきましよう。

ご寄付ありがとうございました

1月18日、佐渡市トキ環境整備基金への寄付金贈呈式が行われ、株式会社セーブオン様より20万円のご寄付をいただきました。

昨年5月、株式会社セーブオンは当市と包括的連携協定を締結し、これまでにさまざまな記念商品を取扱しています。その中の一つとして販売したトキTシャツの売上げの一部を今回寄付していただきました。

ご芳志は、トキ保護増殖およびトキの生息環境整備のために活用させていただきます。ありがとうございました。



世界遺産登録に向けて

イタリアの文化財専門家

佐渡鉱山の遺産群を視察

―日・伊文化財保護協力事業―

2月14日から2月16日にかけて、イタリア文化財・文化活動省の世界遺産条約担当者ら6名が、近代化遺産など世界遺産構成資産を視察しました。

これは、日本・イタリア文化財保護協力事業によるもので、両国の文



道遊坑を視察する
イタリア文化財・文化活動省の専門家たち

化遺産の保護行政の発展に寄与することを目的に、2008年から始まったもの。今までに、世界遺産の紀伊山地の霊場と参詣道や白川郷、重要な文化的景観選定地区の長崎県平戸市で開催されています。

来島初日は、佐渡博物館で概要説明を受けた後、西三川笹川地区へ移動し、砂金採掘跡を水田として開発したことや、近世期から屋敷割がそのまま受け継がれていることなど、興味深そうに聞き入っていました。

15日には、南沢疎水道・宗太夫間歩・大立堅坑・北沢浮遊選鉱場など近世から近代へと時系列を追って視察しました。視察団は、これらの保存管理について、情報提供していきたいと語っていました。

◆市役所世界遺産推進課
(金井コミュニティセンター内)
☎63-5136

